



2017年 7月号 6/10 発売

特集 「生産性」

掲載予定

HBR 論文

■【名著論文再掲】知識労働とサービスの生産性

ピーター F. ドラッカー

“The New Productivity Challenge” HBR, November-December 1991.

「今日、あらゆる先進国において、最大の「経済的」な課題は、知識労働とサービス労働の生産性の向上である。これを先に実現した国こそ、21世紀において優位に立つ」とドラッカーが述べたのは、1991年のことだ。いまなおこの二つの生産性の問題は議論に上る。ドラッカーの先進性を示すとともに、ここで論じられた生産性向上の6つのステップはいまなお有効である。

■ 生産性と成長を実現する超カネ余り時代の戦略

マイケル・マンキンス（ベイン&カンパニー パートナー）ほか

“Strategy in the Age of Superabundant Capital”, HBR, March-April 2017.

これまで希少なお金という資本をいかに効率的に管理するかが経営にとって大切だと考えられていた。しかし2000年代、特に金融危機以降、世界的にお金がGDPを上回るスピードで増え続け、資本コストは限りなく低くなってきている。ベインの分析によるとこのトレンドは一時的なものではなく今後も続く。お金が過剰にありほぼコストなしで調達できる状況においては、投下した金融資本のリターンを最大限効率的にあげて既存ビジネスの利益を増やすことより、ハードルを下げた実験的なプロジェクトにも積極的に投資し新事業を興す成長戦略へと舵を切る必要がある。またこうした状況下、最も希少なものは人的資本であり、これを理解している企業は高い生産性と成長を実現している。

掲載予定

オリジナル論文

■【対談】ハードワーク企業の転換——生産性改革で何を指すのか

伊賀泰代（『生産性』著者）× 永守重信（日本電産 創業者、代表取締役会長兼社長兼 CEO）

永守会長は生産性改革に 1000 億円を投じると宣言して話題を呼ぶように、いまこのテーマを牽引する最先端の企業である。かつては「モーレツ」が象徴とされるほどハードワークが状態化していた企業は、なぜこのような大転換を目指したのか。何を目的にこの施策を進め、実際に成果を上げることはできるのか。ベストセラー『生産性』著者である伊賀泰代氏を聞き手として、また今回の施策を軸としながら、永守会長の経営哲学を掘り下げる。

■ データマーケティングによるサービス業の生産性向上

知識賢治（日本交通社長）

■ 創造性が高める生産性

永山晋（法政大学講師）

広告掲載料金

広告掲載のご案内



雑誌

4 C 2 P(中面) 200万円 (税抜)

4 C 1 P(中面) 100万円 (税抜)

4 C 2 Pタイアップ

~~250万円 (税抜)~~ → 200万円 (税抜)
(製作費込)



DHBRオンライン

トップレクタングル 50万円 (税抜)

GIF+テキスト 40万円 (税抜)

テキスト枠 20万円 (税抜)

お申込み・お問い合わせ

ダイヤモンド社クロスメディア推進部
Tel : 03-5778-7220 Fax : 03-5464-0783
E-mail : web_sd@diamond.co.jp

掲載スケジュール

タイアップ申し込み締め切り：2017年 4月10日(月)
(4月中に取材)

純広告掲載申し込み締め切り：2017年 5月10日(水)